

お手入れ方法

△お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いて、本体が冷めるのを待って作業をしてください。

- 本体内部** ●水でよくすすぎます。
お手入れの際、フタや本体内部などで手を傷つけないよう気をつけてください。
その後、乾いたふきんなどでしっかりと拭いて乾かしてください。
- 本体外側** ●水を含ませたやわらかい布で拭き取ってください。
それでも、汚れが取れない場合は、濡らした布に中性洗剤を含ませて、よく絞ってから軽く拭き取ってください。
△故障の原因になりますので、本体を水に浸けることは絶対にしないでください。
△アルコール、ガンリン、ベンジン、シンナー等で拭かないでください。
- フィルター** ●本体が冷めるのを待ってから、フタを開け、上へ引き抜きます。
●フィルターを水洗いします。洗浄後は乾かしてから、再度しっかり注ぎ口にセットします。

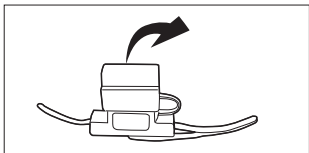
■汚れが落ちにくい場合

- 必要な分だけ沸かして使い切るので、水あかやたまりにくいですが、それでも水に含まれているミネラル成分の作用で汚れが目立ってきたら、水を0.8ℓ入れ、クエン酸(または、微量の食酢)を入れて沸かし、すすいでください。

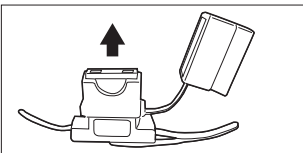
保管方法

- きれいに水気を拭き取り、よく乾かし直射日光を避け、湿気のない場所で保管してください。

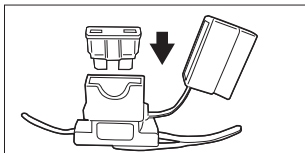
ヒューズの交換 (ヒューズホルダー)



①ヒューズホルダーのフタを開けてください。



②切れたヒューズを取り出します。



③新しいヒューズと交換してください。(ヒューズ容量:10A)

Meltec
Mechanical
electrotechnics

CK-754
あったカーケトル

24V車専用

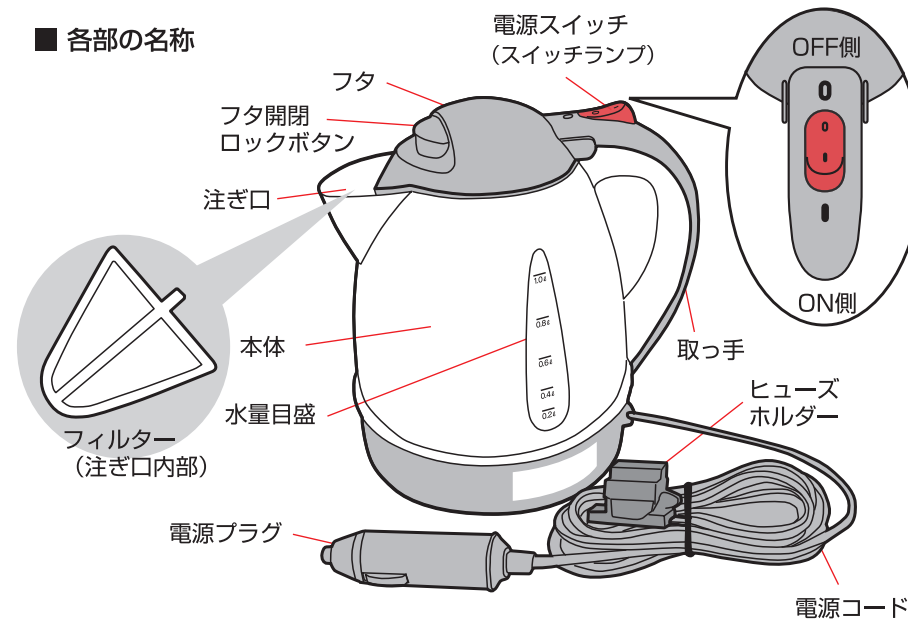
おれのカーケトル

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

この度は、当社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
なお、この取扱説明書には保証書が添付されています。大切に保管してください。

■各部の名称



品番	CK-754
入力電圧/消費電流	DC24V/10A
最大容量	1.0ℓ (1000cc)
電源コード長	約1.3m
本体主要材料	ポリプロピレン
本体サイズ/重さ	約190(W)×180(H)×150(D)mm/約550g

※本製品の仕様、及びカラーは改良の為、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
※本製品は日本で企画・開発し、中国で製造しています。

メルテック
大自工業株式会社

〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-126 TEL.072-976-0101 (代)
http://www.daiji.co.jp/ Eメール: info@daiji.co.jp

MADE IN CHINA 2015.07

安全上のご注意 ●ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お買い上げいただいた製品本体表示および取扱説明書には、使用者や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を表示しています。その表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意 誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

▲警告 必ずお守りください。

- ▲ 本製品を走行中には絶対に使用しないでください。走行中の振動により水や熱湯がとび、周囲を濡らしたり、ヤケドの原因となります。
- ▲ 使用中の本体や注ぎ口はたいへん高温になっています。本体や注ぎ口に触れたり、フタを開けたり、手や顔を近づけないでください。ヤケドをすることがあります。
- ▲ 本製品を使用する際は、しっかりと安定した平らな場所を選んで使用してください。不安定な場所での使用は、本製品が倒れヤケド、感電の原因になり大変危険です。
- ▲ 小さい子供だけで使用したり、幼児の手の届くところで使用しないでください。ヤケドの恐れがあり大変危険です。
- ▲ 電源プラグは熱を持ちますので、ご使用後はさわらない様にしてください。(ヤケドをする恐れがあります。)
- ▲ 使用時は、ヒーター部の基盤が熱くなりますので、お湯が沸きましたらすぐに電源を切ってください。
- ▲ 本製品を洗う際は、故障の原因となりますので底面を濡らさないようにしてください。
- ▲ 分解・改造等はいしないでください。
- ▲ コードは束ねたまま使用しないでください。発熱した熱をうまく放熱できず、配線の被覆が溶け出しショートしてしまう恐れがあります。
- ▲ 使用中・使用直後に本体や注ぎ口に触れたり、フタを開け蒸気に手を近づけたり、本体をゆすったりしないでください。ヤケドをする恐れがあります。
- ▲ 沸騰後、フタの裏には蒸気による熱い水滴が付着しています。フタを開ける際は、ヤケド等に十分注意してください。
- ▲ 本体を傾けたり、ゆすったり移動しないでください。お湯が溢れ出て、ヤケドをすることがあります。
- ▲ 湯沸し中はフタを確実に閉めてください。蒸気やお湯が溢れ出て、ヤケドをすることがあります。
- ▲ 空焚きはしないでください。火災の恐れがあります。
- ▲ 本製品を使用する際は、バッテリーあがりを防止するため、お車のエンジンをかけた状態で使用してください。その際、閉鎖された空間(車庫内)などでは、換気に十分ご留意いただき、排気ガスにご注意ください。
- ▲ 沸かした熱湯の取り扱いには、十分ご注意ください。

▲注意 必ずお守りください。

- ▲ 本製品を初めて使う場合は、水を入れてお湯を沸かし、そのお湯を一度捨ててください。プラスチック等のおいをおいのある程度取り除きます。
- ▲ レトルト商品や哺乳瓶を入れないでください。ビニールやプラスチックが本体内で溶け、故障の原因になります。
- ▲ 本製品に水以外は絶対に入れないでください。ヒーターがこげつき、故障の原因となります。
- ▲ 電源プラグの延長コードは使用しないでください。電源プラグの延長コードを使用すると、製品側電源プラグの接点部分の負担が大きくなり、高熱で電源プラグが破損します。
- ▲ 二連・三連ソケットの使用はできません。本製品の電気容量が大きく、二連・三連ソケット側のヒューズが切れます。
- ▲ 水を1.0ℓ以上入れないでください。噴きこぼれる危険性がありますのでご注意ください。
- ▲ 本製品の電源プラグを直接お車の、アクセサリソケット(DC24V)に差し込みご使用ください。アクセサリソケットのヒューズが10A未満の車種には使用できません。※ヒューズ容量は、お車の取扱説明書で確認してください。
- ▲ 炎天下での直射日光に本製品をあてないでください。炎天下にて長時間駐車をされる場合、車内は急激な温度上昇をします。特にダッシュボード及びリアボード等は高温になっています。高熱により製品が変形する場合があります。本製品を陽のあたらない場所にて保管してください。
- ▲ 本製品を使用する場合は、走行中は避け、必ずサイドブレーキを引き、エンジンがかかった状態で使用してください。エンジンが停止している状態で本製品を使用すると、バッテリー上がりの原因になります。
- ▲ 濡れた手で電源プラグを触ったり、電源の抜き差しはしないでください。感電の恐れがあります。
- ▲ 本製品の電源電圧は、DC24Vマイナスアース車です。プラスアース車やDC24V以外の電源には接続しないでください。

特長

- 車(DC24V電源)の中でお湯が沸かせ、コーヒーや紅茶、カップメン等が作れます。1.0ℓのたっぷりサイズ。
- お湯が沸くと自動で止まるオートストップ機能付。 ● 空焚き防止機能付。

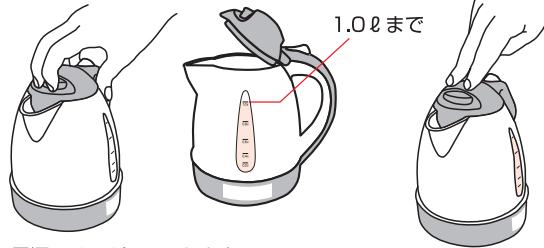
注意

- DC24V以外の電源は使用できません。
- DC-DCコンバーター経由での使用はしないでください。 ※プラグ部の発熱によりDC-DCコンバーターに影響を与えます。
- 二連・三連ソケットからのご使用は出来ません。
- 走行中は絶対に使用しないでください。
- 本製品に水以外は絶対に入れないでください。故障の原因になります。
- 水量目盛はあくまでも目安です。
- 水温、気温等によりお湯の沸く時間が異なる場合があります。
- 使用中の本体や注ぎ口はたいへん高温になります。
- 電源プラグやコード、本体は定期的に点検してください。
- 業務用途及び医療用途には使用できません。

使用方法

ご使用前に 初めて使用する場合や長期間使用しなかった場合は、いったん水を入れてお湯を沸かしたのち、お湯を捨ててから使用してください。

- ① フタ開閉ロックボタンを押しながらフタを開けます。0.2ℓ～1.0ℓの範囲で本体に水を入れ、ふたたびフタをしっかり閉めます。
- ② お車のアクセサリソケット(DC24V)に電源プラグをしっかりと差し込んで、お車のエンジンを掛けてください。



- ③ 電源スイッチをONにします。スイッチランプが点灯し、水を沸かし始めます。

▲ 湯沸し中にフタを開けたり、本体を触ったりしないでください。蒸気や本体でヤケドをする恐れがあります。

※フタを開けたまま電源スイッチを入れた場合、お湯が沸いても電源スイッチは自動でOFFになりません。

- ④ 約60分(目安)でお湯が沸き、自動で電源スイッチがOFFになります。(ランプが消灯します。) お湯が沸く前に電源を切る場合は、電源スイッチをOFFにしてください。お湯が沸きましたら、沸騰状態がおさまってから、アクセサリソケットより電源プラグを抜き、フタを開けずにお湯を注いでください。 ※本製品に保温機能はございません。

▲ このとき本体は高温になっていますので本体に触れないように、取っ手を握ってください。

本製品には給湯ロック機能はついておりません。注ぎ口からは、常にお湯が出る状態ですので、扱いには十分ご注意ください。使用中・使用直後に電源コードを引っ掛けたり、引っ張ったりしないでください。熱湯がこぼれヤケドする恐れがあります。

▲ 沸いたお湯は、少しずつ注いでください。本体を傾けすぎると勢いよくお湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。湯沸し中や直後に電源プラグを触らないでください。電源プラグが熱を持ち、ヤケドをする恐れがあります。

